

2. 流域及び河川の自然環境

2-1. 流域の自然環境

山間渓谷部を流下する七戸川の源流付近は、ブナ - ミズナラ林等の落葉広葉樹林帯が広がる。その後、中流付近では畑地・牧草地等の中を流下し、下流付近は水田地が広がる。

小川原湖周辺には、姉沼・内沼・田面木沼・市柳沼などの小湖沼が点在し、これらを総括して小川原湖湖沼群と呼ぶ。

小川原湖湖沼群は、
 1) 希少種・固有種等の生育・生息状況、
 2) 生物相の多様さ、
 3) 特定種の個体群の生息比率の高さなどの基準から「日本の重要湿地 500」に選定されている。このなかで、小川原湖はビオトープネットワークとしての要となっている。

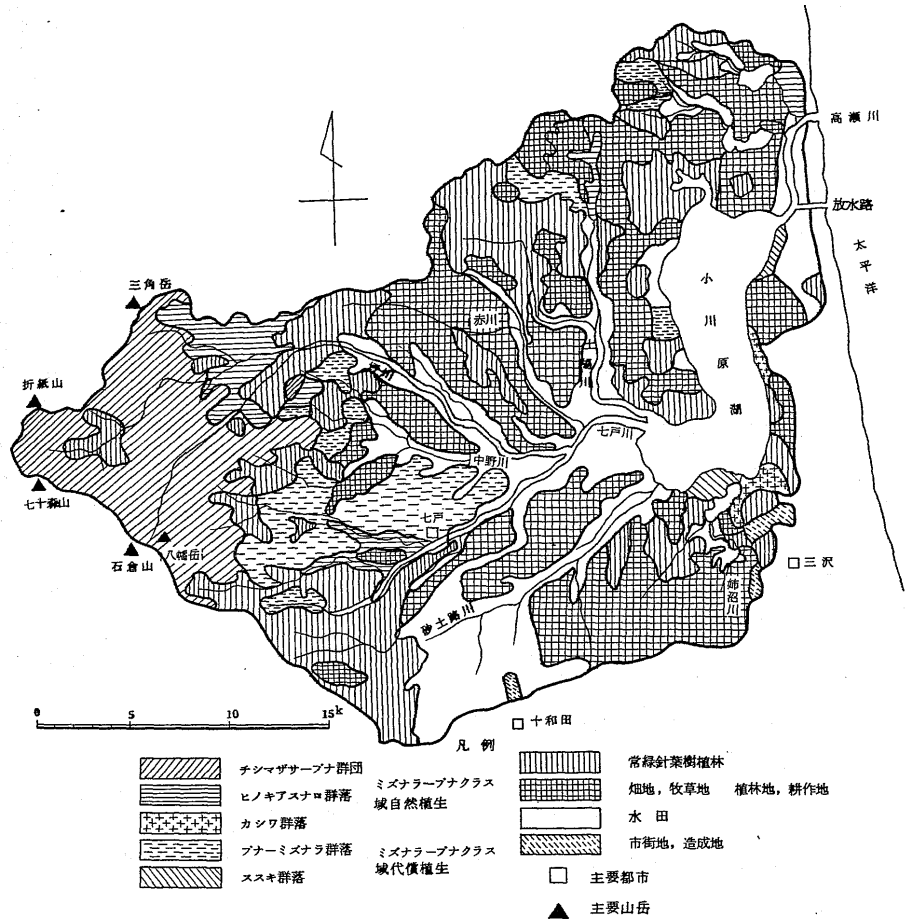


図 2.1.1 高瀬川水系の植生図



図 2.1.2 小川原湖湖沼群の代表的小湖沼

2-2. 河川の自然環境

高瀬川上流の瀬と淵の連続する小坪溪流等には、エゾウグイ、ヤマメ等が生息する。また、中流部には、ワカサギ・トウヨシノボリ・カワヤツメ・メダカ等が生息しており、砂礫底の瀬はトウヨシノボリ等の産卵場に、水生植物帯やワンドはカワヤツメ・メダカ等の生息場となっている。

小川原湖のある下流部は、微汽水性の水深の浅い場所を中心として、カワツルモやシャジクモ等の汽水性及び淡水性の水生植物が多く生育している。北半球の汽水湖では唯一のマリモが確認される等、植物相からみても貴重な汽水環境を有している。また、湖口マウンドは、水産資源として重要なヤマトシジミの産卵場となっている。高瀬川水系を代表する小川原湖は、汽水、淡水の動植物が生息・生育する多様な生態系を有しており、本流域の自然環境を特徴付けるものとなっている。

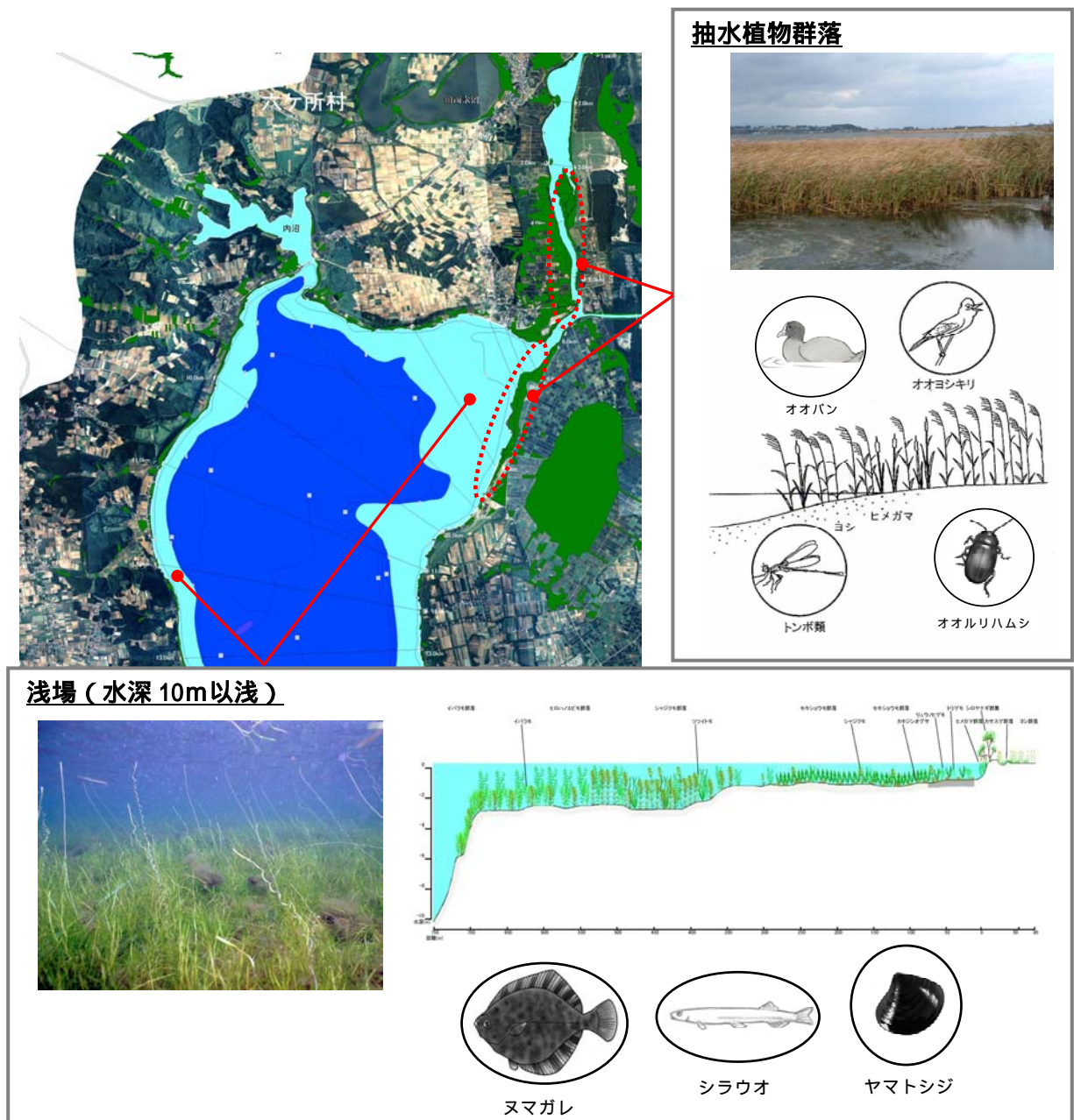


図 2.2.1 小川原湖下流部の生物特性

なお、平成 13 年に新たに発見された「マリモ」について、分子系統学的解析（DNA 解析）を実施した。その結果、小川原湖には「淡水生マリモ」と「汽水生マリモ」である「ウィットロキエラ属サリナ (*Wittrockiella salina*)」が生育していることを確認した。

「淡水生マリモ」については阿寒湖に代表されるものと同種で、「汽水生マリモ」である「ウィットロキエラ属サリナ」は、日本では初確認となる。

この小川原湖の「ウィットロキエラ属サリナ」は、小川原湖底の岩盤上に付着して生育する着生型で、「淡水生マリモ」と混生して確認したものであるが、生態は未だ解明されておらず、貴重な資料であるとともに今後の研究が待たれるところである。

淡水生マリモ



汽水生マリモ（ウィットロキエラ属サリナ）



図 2.2.2 小川原湖に生育する「淡水生マリモ」と「汽水生マリモ（ウィットロキエラ属サリナ）」の顕微鏡写真

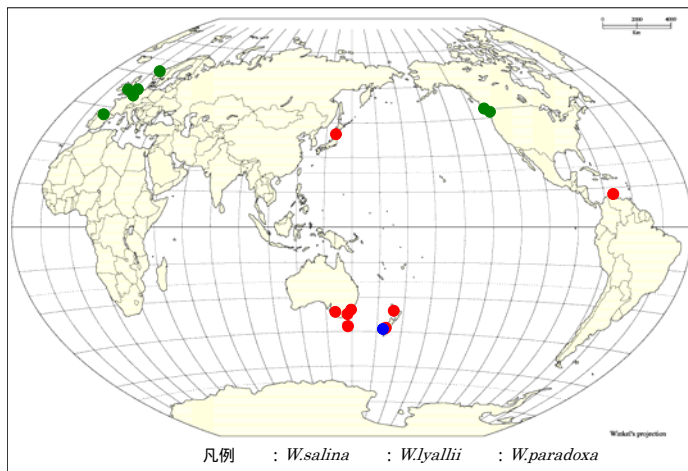


図 2.2.3 世界の「ウィットロキエラ属」の分布

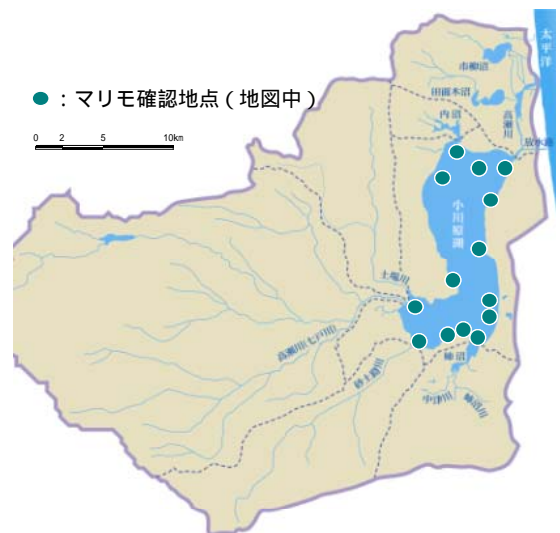


図 2.2.4 小川原湖におけるマリモ確認地点

河口には、干潟やワンドが分布し、イバラトミヨ・ピリング等の魚類の産卵場や仔稚魚の生育場となっている他、ゴカイ等の餌生物が豊富であるため、鳥類等の捕食者も訪れる河口周辺の塩沼植物群落や砂丘植物群落には、面積は小さいものの、それぞれの群落に特有な生物が生息・生育している。

また、小川原湖と連結する内沼・姉沼・田面木沼・市柳沼等の小川原湖湖沼群は、ガン・カモ類等の越冬地・渡りの中継地となっている。

特に、かつて連結湖であった仏沼周辺は、日本で数少ないオオセッカ繁殖地の最大の地域であり、国指定鳥獣保護区に指定が予定されている他、ラムサール条約登録に向けて動いている。また、市柳沼周辺は、日本で有数のカンムリカイツブリの繁殖地であり、世界の繁殖分布の最東端となっている。

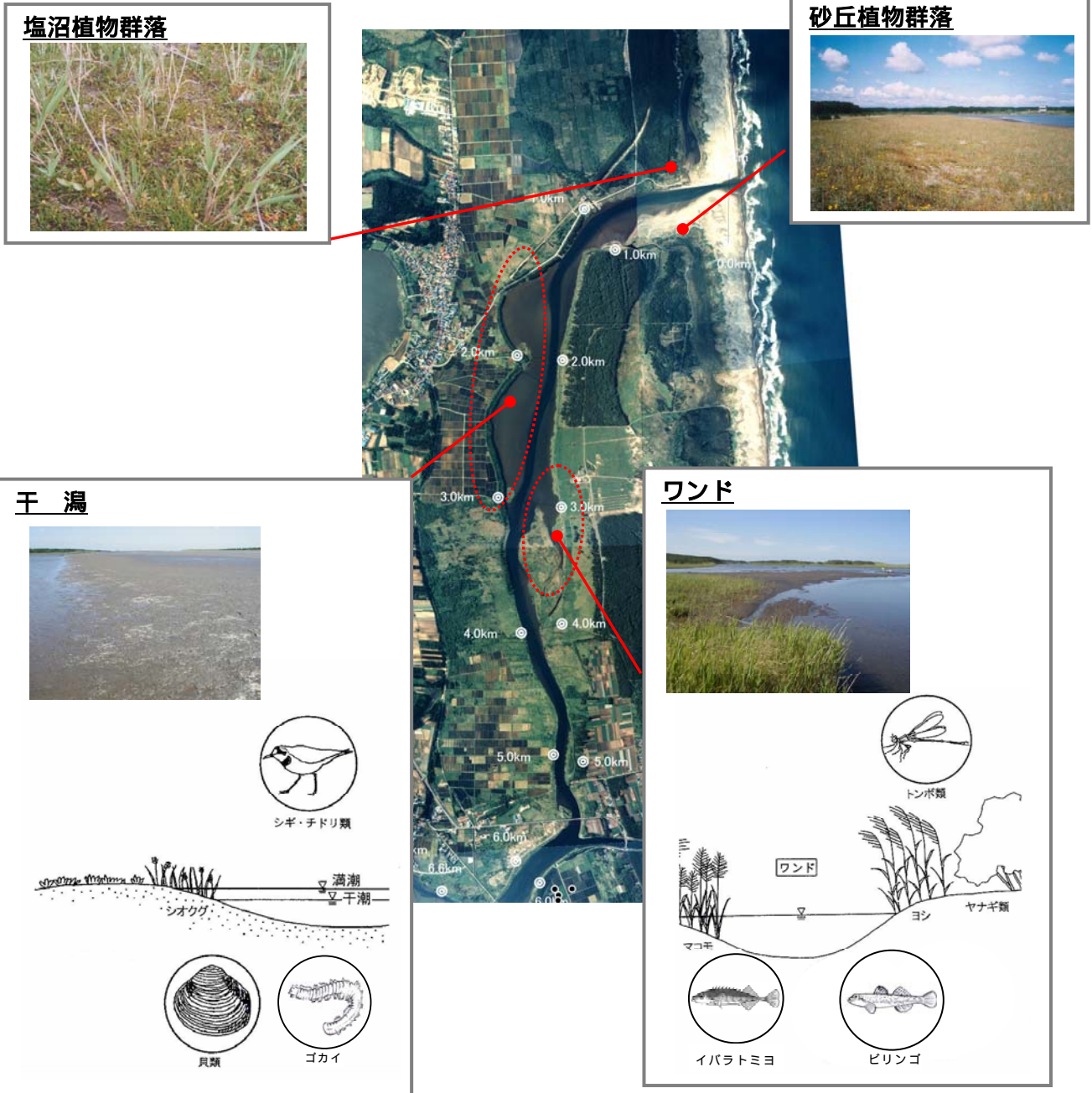


図 2.2.5 高瀬川河口部等の生物特性

2-3 . 特徴的な河川景観や文化財等

(1)特徴的な景観

高瀬川の上流坪川の支川である小坪川溪流は、山合い 10km にわたり変化に富む流れが楽しめ、春には新緑、秋には紅葉が楽しめる高瀬川の上流を代表する優れた河川景観である。

高瀬川を代表する小川原湖の景観は、水平的に広がりをもつ基調としながら、縦方向では起伏の変化に乏しく、横方向での地形の変化も乏しいことが特徴的といえる。

高瀬川を代表する小川原湖は平地部に形成されており周辺は台地で高い山もなく、遠くまで広い範囲にわたって見渡せ、遠景には八甲田山などの山が眺められる。湖岸周辺の台地からの展望は、あらためて小川原湖の広さを感じさせるとともに、周辺の緑の深さと静寂は豊かな自然に包まれていることを思わせる。



(出典：天間林村HPより)

図 2.3.1 小坪川の河川景観

・八甲田山



・小川原湖(上空より)



図 2.3.2 小川原湖の優れた景観

(2)文化財等

高瀬川流域には、縄文時代の遺跡や中世城館跡などの歴史的地物が多く存在している。七戸城跡などの史跡、南部七戸見町観音堂庶民信仰資料などの重要有形民族文化財、小川原湖のハクチョウなどの天然記念物など、国・県合わせて 13 の指定文化財が存在している。

東北町および天間林村には「坪の碑伝説」＝「日本中央の碑伝説」、小川原湖周辺には「玉代姫・勝世姫の伝説」などがあり小川原湖を中心として歴史・文化が育まれていった状況がうかがえる。

また、小川原湖周辺には、鯨森遺跡・向平遺跡・二ツ森貝塚・中志貝塚など多くの遺跡貝塚が分布し、古代より小川原湖と人々の暮らし・営みと深い関わりがあったことが理解される。



図 2.3.3 高瀬川流域におけるの主な文化財の位置

表 2.3.1 高瀬川流域内文化財一覧表

指定	種別	名称	所在地	時代由来・備考	地図番号
国	史跡	七戸城跡	上北郡七戸町字七戸	平安時代に後期。作田川、和田川合流点付近の洪積台地の先端を利用して造られている。	
国		二つ森貝塚	上北郡天間林村榎林字貝塚家の前	縄文時代前期は海水性の貝塚、同中期は汽水性の貝塚が形成される。貝塚及び集落遺跡。	
国	重要有形民族文化財	南部のさしこ仕事着コレクション	小川原湖民族博物館展示・小牧温泉内	南部地方の農家で農作業の仕事着に用いた。実用性と装飾美を工夫した手工芸の技。	
国		南部七戸見町観音堂庶民信仰資料	絵馬館展示・上北郡七戸町字荒熊内 67 - 94	羽子板、読経札等計 359 点と多様に富み、当地区の特色ある庶民信仰の実態と推移を知る貴重な資料。	
国		南部七戸小田子不動堂奉納絵馬	絵馬館展示・上北郡七戸町字荒熊内 67 - 94	絵馬 108 点。古くから良馬の産地として著名であった南部地方における江戸時代の絵馬奉納の本源的風習を示すもの。	
県	重宝	見町観音堂	上北郡七戸町見町 37 - 2	江戸時代中期。正面 3 間・側面 3 間で宝形造茅葺の仏堂。	
県		鯨骨製青竜刀形骨器・鹿角製尖頭器・猪牙製垂飾品・鹿角製叉状品	上北郡天間林村天間字森の上 210	縄文時代前期・中期。漁具のヤス又は銚の未製品、針等の利用。ブローチ。	
県		青岩寺本堂	上北郡七戸町字町 7	天承 10 年(1582)に現在の地に移築されたが、その後の火災により焼失。現在の建物は 1855 年に再建された。	
県	史跡	一里塚	上北郡天間林村天間館 52 - 1	1604 年、徳川家康の命により、日本橋を基点とし、一里(3.93 km)ごとに、里程標として全国主要街道に築かせたもの。	
県		一里塚	上北郡天間林村天間館字森ノ上 51・森ノ下 55		
県	有形民族文化財	舟ヶ沢の丸木舟	東北町コミュニケーションセンター展示・上北郡東北町塔ノ沢山 1	用材は杉で 480 年ほど前に伐採し制作した説がある。小川原湖上での人や物の運搬、沿岸漁業民の生活の歴史の手がかりとなる。	
県	天然記念物	小川原湖のハクチョウ	上北郡・三沢市	小川原湖沼郡は中継・休息地。11~12 月・2~3 月に多い。オオハクチョウ・コハクチョウの両種が飛来し、1200 羽の記録がある。	
県		銀南の木	上北郡七戸町銀南木	推定樹齢 700 年、樹高 26m。近郷の人々には「乳の出がよくなる樹」と崇拝されている。	

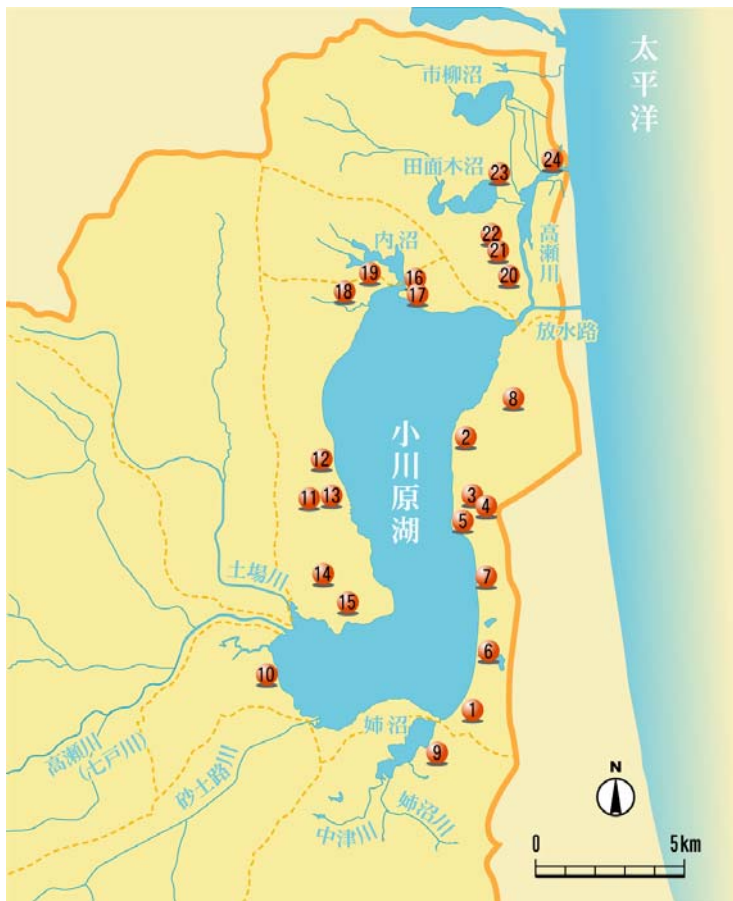


図 2.3.4 小川原湖周辺の主な埋蔵文化財の位置



約5000年前の小川原湖
 図 2.3.5 小川原湖周辺の遺跡・貝塚の位置と約 5000 年前の小川原湖の状況

表 2.3.2 小川原湖周辺の主な埋蔵文化財の一覧表

番号	名称	種類	遺物	所在地(通称名)
	鯨森遺跡	縄文	中期土器	三沢市大字三沢字浜通(基地内)
	八幡館遺跡	竪穴群	中期土器・土師器	”(八幡館)
	山中貝塚	貝塚	早～晩期土器	”(山中)
	野口遺跡	縄文	早・前・後晩期土器	” 字早稲田(野口)
	早稲田貝塚	貝塚	前～晩期土器	” ”
	風穴遺跡	住居跡		”(風穴)
	笹貝沢貝塚	貝塚		”(笹貝沢)
	矢作坂遺跡			”(矢作坂)
	平畑遺跡	縄文	前・中期土器	”(平畑)
	立野遺跡	土師・須恵	土師・須恵器	上北町大字大浦字立野
	田の沢遺跡	”	前期土器片	東北町字田の沢
	田の沢遺跡	”	前期土器片・石斧	”
	川添遺跡	”	後期注口土器	” 字川添(田の沢)
	徳万館遺跡	”	小石皿	” 字徳万館(舟ヶ沢)
	向平遺跡	縄文・土師	前期土器片・土師器片	” 字向平(”)
	唐貝地遺跡	”	早～晩期土器	六ヶ所村倉内字唐貝地
	金堀沢遺跡	”	中～後期土器・土師器	” 字内沼
	中志貝塚(1)(2)	貝塚	早期・中期土器	” 字家ノ上, 中志
	湯の沢貝塚	”		” 字湯の沢
	八ゴ道遺跡	縄文	中期土片・竪穴	” 字道ノ下
21	鷹ノ巣沢遺跡	”	中期・後期土器	” ”
22	二階坂遺跡	”	後期土器	” 平沼字二階坂
23	平沼遺跡		貝殻	” 字室ノ久保
24	市柳浜遺跡	縄文・弥生	縄文晩期・弥生破片	” 字道ノ下